

穴埋め問題（問題）

第3章 日常の家畜の管理作業

「1. 農場の衛生管理・安全管理」

1. 農場の人が注意すること

- ・ 畜舎に出入りする時には（ ）や作業服などの（ ）を十分に行います。
- ・ 家畜の（ ）を注意深く観察して、異常だと感じたら農場主に報告します。
- ・ （ ）やネズミなどの野生動物が畜舎へ侵入するのを（ ）します。
- ・ （ ）はウイルスや病原性細菌を媒介するとともに、ハエの（ ）の発生は野鳥を集めることにもなるので、ハエの（ ）は大切です。＝【P115】＝

2. 消毒用噴霧器

手動式で、車両の場合には車の（ ）や（ ）の消毒をおこない、人の場合には（ ）の消毒をおこないます。消毒液の（ ）が常に必要です。

＝【P117】＝

第3章 日常の家畜の管理作業

「2. 乳用牛」

1. 飼料倉庫

- ・飼料倉庫には野鳥や（ ）が入らないように注意します。
- ・常に清掃して（ ）にしておきます。
- ・飼料に（ ）が生えていないかを確認します。

= 【P119】 =

2. 牛舎の換気

- ・寒い時期（ ）風を防ぎます。
- ・暑い時期は牛舎の（ ）や換気に気をつけて、十分な空気の（ ）を作ります。
- ・暑い時期には（ ）温度が39℃以上になる場合も多く、呼吸数が増加し、飼料摂取量も（ ）します。 = 【P120】 =

3. 乳頭の清拭

- ・（ ）に浸したタオルで乳頭を清拭します。
- ・清拭の目的は、「（ ）を与えること」と「乳頭表面の殺菌」です。
- ・タオルは1頭に（ ）以上用意し、使い終わったものは（ ）バケツに入れておきます。
- ・布のタオルではなく、使い捨ての（ ）を使用する場合もあります。 = 【P123】 =

第3章 日常の家畜の管理作業

「3. 肉用牛」「4. 豚」

1. 呼吸の状態

以下のような場合には呼吸器病が疑われます。

- ・ () 呼吸、努力性呼吸
- ・ () の増加
- ・ 腹式呼吸 = 【P128】 =

2. 発咳の時

() (間違って異物を飲み込んでしまう) や呼吸器病が疑われます。

= 【P128】 =

3. 子豚哺乳・育成時の暖房について

子豚の適温は高く、まだ () 能力が低いため十分な () が必要です。適温域は () とともに変化するため、適切か否かをその都度判断します。出生時の適温は () °C、1週間たつと () °C、2週で28°C、3週で26°Cと徐々に低くなります。 = 【P130】 =

4. 子豚の管理の注意点

子豚は疾病にかかりやすく、（ ）異常（下痢症）と呼吸器異常（ ）をおこすことが多いです。また、母豚からの（ ）によって発育不良もおこるため、母豚である繁殖豚の（ ）も重要であり、ワクチン接種も（ ）を連動させて摂取します。

= 【P131】 =

5. 暑熱時の注意点

子豚は寒さに弱く、成長した肥育豚、繁殖豚は（ ）に弱いです。肥育豚、繁殖豚の飼育環境は約（ ）℃が適正です。適温域の異なる繁殖豚と子豚は、（ ）前後の高温によって繁殖雌豚（母豚）が影響をうけると、子豚に対してもその（ ）が及びます。

暑熱時には、扇風機による（ ）通風をおこない、とくに（ ）付近の通風を維持します。（ ）に当てることと、湿気を取り除くためです。風速は（ ） m/秒以上を目安とします。豚舎内での風向が（ ）方向になるように換気輪道に注意して配置します。

= 【P133】 =

第3章 日常の家畜の管理作業

「5. 養鶏（採卵鶏と肉用鶏）」 「6. その他」

1. 湿度管理

初生ひなは、湿度（ ）%の環境から徐々に室内湿度に対応できるように慣らしていきます。入すう時に（ ）℃の下で湿度65%を保つには、どの育すう器でも（ ）を置くなどして（ ）する必要があります。しかし、1週間ほど経過すると、（ ）量が増加し、糞からの水分蒸発量が多くなるので、これに合わせて（ ）を減らします。10日目ごろからはむしろ（ ）させるようにします。 = 【P135】 =

2. 断嘴（デビーク）の方法

育すう期間中にはひなのなかで（ ）がしばしばみられます。ひなが小さいうちは尾の付近が傷つく程度ですみませんが、初産前になると、（ ）までつつきだすことが多く、しかも（ ）に思わぬ被害をうけます。これらの被害を防止するために（ ）（デビーク）をおこなうことがあります。

断嘴は、断嘴器（デビーカー）を用いて、上下のくちばしを（ ）もので、採卵鶏の場合、（ ）日齢でおこなうことが多いです。 = 【P138】 =

3. 飼料の受け入れ

飼料タンクまたは保管庫は、飼料搬入前に（ ）されており、飼料搬入車は、（ ）などで適切な消毒をおこなわなければなりません。飼料はその外観、（ ）、風味及び（ ）に異常がないことや、（ ）が認められないことと、（ ）検査を定期的の実施してる工場由来の飼料であることが必要です。

また、配合されている飼料原料、飼料（ ）の名称及び出荷制限期間を把握していることが重要です。 = 【P139】 =

4. 軽種馬

①育成牧場の管理

・騎乗調教の強度に合わせて、（ ）飼料の給与量を増やしていきます。

・騎乗調教が進んでいる馬は、蹄に（ ）を装着するので、じゃれあってケガをしないよう（ ）は行わず、（ ）小さな放牧地（パドック）に放牧することが一般的です。

= 【P144】 =